

大森地区優秀作文



税金のありがたみ

大田区立大森第八中学校 三年 守屋 美来

「大雨特別警報、ただちに命を守るための行動を」ここ最近、テレビの速報で頻繁に流れるこのニュースに目が留まった。今年の夏は急な大雨が多くなっている。その理由はおそらく、気候変動やヒートアイランド現象などによる日本の気温の上昇だろう。また、大雨の影響で土砂災害も増加している。

このような状況を防止するために、二〇二四年度から森林環境税という税金が徴収されるようになった。これは自治体が森林整備などの財源に充てるために国内に住所がある人から一人千円、住民税と上乗せして徴収される税金である。なぜ森林環境税が必要なのだろうか。それは、森林が多くの環境問題に影響をあたえているからだ。例として、土砂災害防止機能や地球温暖化を防ぐ地球環境保全が挙げられる。その他にも多くの機能を持ち、人が生きる環境を守るために様々な役割を果たしている。しかし、日本は現状、林業を担う人が少なくなり、加えて高齢化も進み、森の管理が難しくなっている。また、国産木材の利用が伸びなかったことから、適切な手入れが行われず荒れてしまう森林が数多くある。そのため、森林環境税が必要なのである。また、森林環境税

は、国通じ、森林環境譲与税として全国の市町村と都道府県に配分される。森林環境税譲与税は、森林の整備や林業の担い手後継者の育成資金などに活用されている。

一方で、森林環境税を調べていると、否定的な意見も多く見られた。私自身も初めは税金が増えていくことに抵抗を感じたが、森林環境税を徴収しなければならぬということは、それほど地球の環境が危機に陥っている状況であり、これを防止するためには必要なことであると考えられるようになった。地球環境を守り、未来につなげることは、現在に生きる人々の責任でもある。そのため、国民一人一人が現状を知り、これから何をしなければいいかを考えていかなければならない。

納税は、すぐに効果が目で見られなかったり、憲法で義務として定められていることから、マイナスのイメージばかり感じてしまう人が多い、これは、税金が何に使われているかを知らないためでもある、税金があるからこそ、社会が成り立ち、誰もが安心して暮らすことができている。環境問題をはじめ、多くの課題がある現在、税金の使い道について一人一人が真剣に考え、話し合い、それぞれが納得して、税金を納められるようにしていかなければならない。私たちはもう一度、税についてよく知ること、「税金のありがたみ」に気づくことができると思う。